

令和2年度 事業実施計画

令和2年度一般会計補正予算（臨時会関係）説明資料

10款 教育費
6項 社会教育費
2目 図書館費

図書館（電話：0857-26-8155）
（単位：千円）

| 事業名 | 補正前 | 補正 | 計 | 財源内訳 | | | | 備考 |
|---|--|-------|---------|---------------------------------|----|-----|-------|---------|
| | | | | 国庫支出金 | 起債 | その他 | 一般財源 | |
| 図書館運営費 | 203,954 | 1,980 | 205,934 | 1,980 | | | | |
| トータルコスト | 332,570 | 2,767 | 335,337 | （補正に係る主な業務内容） | | | | |
| 従事する職員数 | 12.8人 | 0.1人 | 12.9人 | 契約・発注業務 | | | | |
| 工程表の政策目標 （指標） | — | | | | | | | |
| 事業内容の説明 | | | | 【「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」充当事業】 | | | | |
| 1 事業の目的、概要 | | | | | | | | |
| 不特定多数の利用者が訪れ、高齢の利用者も多いため他の施設よりも新型コロナウイルス対策を徹底する必要がある図書館において、常時清潔な本を提供可能にする書籍消毒器を設置し、利用者の安全・安心に寄与する。 | | | | | | | | |
| 2 主な事業内容 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | （単位：千円） |
| 項目 | 内容 | | | | | | 予算額 | |
| 書籍消毒器 デンネツ殺菌ブッククリーン 『COCOCHI』の設置 | 書籍消毒器を2台設置し、返却された本の除菌等を行うことで、利用者に清潔な資料を提供できるようになり、より安心して施設を利用できるようにする。 | | | | | | 1,980 | |

令和2年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費

6項 社会教育費

図書館（電話：0857-26-8155）

2目 図書館費

（単位：千円）

| 事業名 | 本年度 | 前年度 | 比較 | 財源内訳 | | | | 備考 |
|---|--|--|-------|-------|----|--------------|------|--|
| | | | | 国庫支出金 | 起債 | その他 (助成金) | 一般財源 | |
| (新) 鳥取県立図書館 開館30周年記念事業 | 3,105 | 0 | 3,105 | | | 2,800 | 305 | (一財) 自治総合 センター のシンポ ジウム助 成金を活 用する。 |
| トータルコスト | 4,679千円（前年度 0千円） [正職員：0.2人] | | | | | | | |
| 主な業務内容 | 30周年記念シンポジウムの開催準備、記念誌の発行準備、記念イベントの開催準備 | | | | | | | |
| 工程表の政策目標(指標) | 生涯学習の環境整備と活動支援 | | | | | | | |
| 事業内容の説明 | | | | | | | | |
| 1 事業の概要 | | | | | | | | |
| 鳥取県立図書館の30周年（平成2年10月に現在の場所に移転開館）を記念し、公立図書館に求められる役割を考えるシンポジウムを開催するとともに、30年の歩みを検証する展示等の各種イベントを開催する。 | | | | | | | | |
| 2 事業内容 (単位：千円) | | | | | | | | |
| 区分 | 予算額 | 事業内容 | | | | | | |
| 県立図書館開館30周年記念シンポジウムの開催 | 2,800 | Society5.0が実現する中、未来の公共図書館や求められる教育について、県民の皆さんとの対話の中で考えるためのシンポジウムを開催する。 (予定時期) 令和2年10月中旬(2日間) (予定会場) 鳥取市民会館ほか (内容) ・記念講演 ・パネルディスカッション ・県民と考える未来の図書館ワークショップなど | | | | | | |
| 記念誌の発行 | 282 | 鳥取県立図書館開館30周年の節目として、記念誌を発行する。 (印刷部数) 100部 | | | | | | |
| 記念イベントの開催 | 23 | 図書館を身近に感じる、本を楽しむ、本を介したコミュニケーションの機会をつくり、県民と協働で読書振興を図るためイベントを開催する。 (予定時期) 令和2年10月中旬(シンポジウムの前後) (予定会場) 県立図書館、とりぎん文化会館中庭ほか (イベント内容) ・図書館見学ツアー ・映画「ニューヨーク公共図書館」×鳥取県立図書館 ・青空ひと箱古本市 | | | | | | |
| 記念資料展の開催 | — | 県立図書館の歴史を振り返るとともに、現在の図書館活動を発信し、県民とともにこれからの図書館の可能性を考えていく機会とするための特別資料展を開催する。 (予定時期) 令和2年9月中旬～10月中旬 (予定会場) 県立図書館 (展示名) 鳥取県立図書館の30年のあゆみ(仮題) | | | | | | |
| 合計 | 3,105 | | | | | | | |

令和2年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費

6項 社会教育費

図書館（電話：0857-26-8155）

2目 図書館費

（単位：千円）

| 事業名 | 本年度 | 前年度 | 比較 | 財源内訳 | | | | 備考 |
|-------------------|---|-----|----------------------------|-------|----|-----|----------------------------|----|
| | | | | 国庫支出金 | 起債 | その他 | 一般財源 | |
| デジタル化時代の知の拠点づくり事業 | 債務負担行為 107,542 5,728 | | 債務負担行為 107,542 2,943 | | | | 債務負担行為 107,542 5,728 | |
| トータルコスト | 11,237千円（前年度 8,342千円） [正職員：0.7人] | | | | | | | |
| 主な業務内容 | 資料のデジタル化の推進、デジタルアーカイブシステム構築のためのスキルアップ研修講座受講、デジタル化計画ネットワーク会議の開催、デジタル化資料の公開 | | | | | | | |
| 工程表の政策目標(指標) | 生涯学習の環境整備と活動支援 | | | | | | | |

事業内容の説明

1 事業の概要

利用者の資料利用の利便性を向上させ、地域独自の歴史や文化に関する資料を容易に利用できる環境を整え、次世代に伝え残していくため、図書館の貴重な資料を電子化し広く公開する。そのための手法として、博物館、公文書館、埋蔵文化財センターや市町村立図書館、大学図書館等と連携するとともに、住民参加型のデジタルアーカイブシステム（以下、DAシステム）の構築を検討し、子どもから高齢者、障がい者、外国人等の利用者に応じたユニバーサルデザインを意識したシステムを構築し公開する。
※デジタルアーカイブシステムとは、デジタル化資料を保存・公開する仕組みのこと。

2 事業内容

（単位：千円）

| 区分 | 予算額 | 事業内容 |
|--------------------|-------|--|
| (新) DAシステムの構築・公開 | 2,879 | 図書館、博物館、公文書館、埋蔵文化財センターが所蔵するデジタル化資料を登録・管理するとともに、館内端末やインターネットを使って検索できるシステムを構築し、保守・運用を開始する。 |
| 効果を広報するシンポジウムの開催 | 323 | 県立博物館、県立公文書館、県立埋蔵文化財センター、県立図書館の4館が協働して、デジタルアーカイブシステム公開の効果を広く県民に広報するシンポジウムを開催する。 |
| 資料のデジタル化の推進 | 2,210 | 希少性の高い貴重資料、劣化の進行が著しい資料など、緊急性の高い資料を優先した年次計画（H30年度～H34年度の5カ年計画）に基づいて資料のデジタル化を行う。 |
| スキルアップのための研修講座の受講 | 309 | デジタルアーカイブの公開に向けて、専門的な研修に参加してデジタルアーキビスト、文書情報管理士等の資格を取得し、継続的に本事業を支える館内体制を構築する。 |
| デジタル化計画ネットワーク会議の開催 | 7 | 市町村立図書館、大学図書館等との協議の場を持ち、望ましいシステム開発の一助とする。 |
| 合計 | 5,728 | |

3 これまでの取組状況、改善点

- 平成15年度から17年度の3カ年、絵図のデジタル化を行い、その画像をホームページで公開した。館内の専用端末でのみ詳細な画像を閲覧可能としている。印刷や出版物への掲載の希望も多くある。
- 平成28年度は「デジタル化検討委員会」を図書館内に立ち上げ、国立国会図書館や有識者のアドバイスを受けながら検討を開始した。
- 平成29年度は「総合的なデジタル化計画」を作成、LAN環境の整備、デジタル化計画を総合的に運営管理できる職員育成のための研修派遣を実施した。
- 平成30年度から令和元年度はデジタル化予定資料の中から優先順位を考慮し、書画等のデジタル化を開始するとともに、令和2年度のシステム導入・公開を見据え、県内の市町村立図書館及び関係機関の意見調整を行う「デジタル化計画ネットワーク会議」を開催した。

令和2年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費

6項 社会教育費

図書館（電話：0857-26-8155）

2目 図書館費

（単位：千円）

| 事業名 | 本年度 | 前年度 | 比較 | 財源内訳 | | | | 備考 |
|--|--|---|-------|-------|----|-----|-------|----|
| | | | | 国庫支出金 | 起債 | その他 | 一般財源 | |
| 仕事とくらしに役立つ図書館推進事業 | 7,873 | 5,758 | 2,115 | | | | 7,873 | |
| トータルコスト | 30,696千円（前年度 28,778千円） [正職員：2.9人] | | | | | | | |
| 主な業務内容 | 県民生活の課題解決を支援するサービスの提供、環境整備、ビジネス支援サービスの利活用の促進 | | | | | | | |
| 工程表の政策目標(指標) | 生涯学習の環境整備と活動支援 | | | | | | | |
| 事業内容の説明 | | | | | | | | |
| 1. 事業の概要 | | | | | | | | |
| <p>図書館が有する多様な資料や、専門職としての司書の能力を最大限に活かし、地域の情報拠点として、県民の情報要求に応え、仕事とくらしに関わる県民と地域の課題解決に向け必要な情報を提供する。特に、仕事に役立つサービスの提供、社会問題となっている認知症対策の支援や高齢者への支援、子育てを応援する取組を推進する。</p> | | | | | | | | |
| 2. 事業内容 （単位：千円） | | | | | | | | |
| 区分 | 予算額 | 事業内容 | | | | | | |
| 地域の情報拠点の推進 | 3,980 | 利用者の高度化する情報要求に応えるため、商用データベースを拡充導入し、県内の図書館員に対しても指導助言できるよう職員の情報検索スキルの向上を図る。 | | | | | | |
| 図書館ビジネス推進事業 | 493 | 公共図書館のビジネス支援機能の浸透を図るため、セミナーを開催し、幅広い層への浸透を図る。また、平成30年度から重点としてきた農業分野の情報提供機能強化について、引き続き県立図書館の専門資料や調査機能を活用し、県内全域でのビジネス支援サービスの定着、利用者の掘り起こしに取り組む。 | | | | | | |
| (新) 闘病記をはじめとした「当事者の語り」の普及啓発事業 | 733 | 闘病記をはじめ当事者が発信する情報について普及啓発し、図書館資料の利活用を推進する。 | | | | | | |
| 図書館利用に障がいのある人に配慮した図書館サービスの充実 | 2,283 | 高齢者へ図書館サービスを周知し、利用促進を図るため、関連施設との協力体制を整備するとともに、県内における音読教室の拡充を図る。誰もが利用しやすい設備、特に視覚障がい者に対するサービス提供のための環境整備を推進する。 | | | | | | |
| 図書館で「すくすく子育て」応援事業 | 384 | だれにでもやさしい子育ての環境づくりを応援するために、子育て・人材局等と連携し、託児サービスの実施と普及や男性が絵本の読み聞かせを行う「読みメン」の普及を図る。 | | | | | | |
| 合計 | 7,873 | | | | | | | |
| 3. これまでの取組状況、改善点 | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化が進んでいる現在、各年代の課題を解決するためのサービスを提供するため、高齢者や子育て世代への支援を普及するための取組を推進している。 ・ これまで培ってきた各サービスの技術・知識を連携させ、複雑化する利用者の課題に対応するとともに、市町村立図書館や関係機関への普及・啓発を行っている。 ・ 専門機関との連携により、図書館のビジネス支援機能への理解が徐々に広がり、この機能を活用し、起業・商品づくりにつながった事例が報告されている。 | | | | | | | | |

令和2年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費

6項 社会教育費

図書館（電話：0857-26-8155）

2目 図書館費

（単位：千円）

| 事業名 | 本年度 | 前年度 | 比較 | 財源内訳 | | | | 備考 |
|--|--|--|-------|-------|----|-----|------|----|
| | | | | 国庫支出金 | 起債 | その他 | 一般財源 | |
| 人の成長・学びを支える図書館推進事業 | 512 | 631 | △ 119 | | | | 512 | |
| トータルコスト | 15,465千円（前年度 15,713千円） [正職員：1.9人] | | | | | | | |
| 主な業務内容 | 子どもの読書推進、児童図書室の運営、サポートの必要な家庭への図書館の資料や場の提供等 | | | | | | | |
| 工程表の政策目標(指標) | 生涯学習の環境整備と活動支援 | | | | | | | |
| 事業内容の説明 1 事業の概要 子どもの読書推進を図るため、子どもたちに日常接する職員（公共図書館職員、学校関係職員、幼稚園教諭、保育士等）の養成や、市町村図書館児童図書部門の支援を行う。 また、経済的に困窮する家庭や、ひとり親家庭などで育つ子どもたちが図書館に来館するきっかけを増やす。 | | | | | | | | |
| 2 事業内容 （単位：千円） | | | | | | | | |
| 区分 | 予算額 | 事業内容 | | | | | | |
| (新) ストーリーテリング研修講座 | 44 | 昔話や短い話を覚えて語る手法で、子どもと本をつなぐ代表的な方法であるストーリーテリングについて、基礎的な理論を学び、互いの実践や意見交換を通じて研鑽を深める。（県内3会場） | | | | | | |
| 子どもと本をつなぐ講座 | 314 | 子どものことばや想像力、生きる力を育む本をどう選べばよいか、選書の理論や与える際の具体的方法を学ぶ講座を開催する。（H30～R4の5カ年計画の3年目・県内2会場）【対象】公共図書館職員、学校関係職員、読み聞かせボランティア等 | | | | | | |
| 「図書館＝居場所!? キャンペーン～来て! 見て! 図書館～」 | 154 | 県内市町村立図書館と連携し、小中高特別支援学校の校外学習や社会見学、学童保育や児童館、公民館、こども食堂等の遠足等での来館を促すキャンペーンを実施する。併せて、学校図書館と連携し、校内で学校図書館が居場所として活用できることをPRする。 | | | | | | |
| 合計 | 512 | | | | | | | |
| 3 これまでの取組状況、改善点 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度から開催している「子どもと本をつなぐ講座」や市町村図書館実務担当者会（平成30年度からは隔年開催）の実施により、市町村立図書館職員、学校関係職員、幼児教育関係者の資質向上と、子ども読書支援者の連携に繋がっている。 ・平成29年度から「サポートの必要な家庭」応援プロジェクトチームを立ち上げ、取組みを開始した。市町村立図書館や支援機関等との連携が進み、図書館が様々な背景を持つ子どもたちの「居場所」になれるという考えが図書館員や支援者に浸透しつつある。しかし、サポートの必要な家庭で育つ子どもたちの十分な活用までには至っておらず、取組みを継続する必要がある。子どもに身近な学校現場と連携し更なるPR活動を実施する。 | | | | | | | | |

令和2年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費

6項 社会教育費

図書館（電話：0857-26-8155）

2目 図書館費

（単位：千円）

| 事業名 | 本年度 | 前年度 | 比較 | 財源内訳 | | | | 備考 |
|--|--|--|---------|-------|----|---------------|-------|----|
| | | | | 国庫支出金 | 起債 | その他 (財産収入) | 一般財源 | |
| 郷土情報発信事業 | 4,625 | 7,513 | △ 2,888 | | | 78 | 4,547 | |
| トータルコスト | 30,236千円（前年度 30,533千円） [正職員：2.9人、会計年度任用職員：1.0人] | | | | | | | |
| 主な業務内容 | ふるさとの歴史再発見事業（資料展、郷土文化講演会等）、小冊子「郷土文学者シリーズ」の広報、地域資料データベース等サービス事業、資料調査、研究、収集等、郷土資料室でのサービス提供、その他管理事務 | | | | | | | |
| 工程表の政策目標(指標) | 生涯学習の環境整備と活動支援 | | | | | | | |
| 事業内容の説明 | | | | | | | | |
| 1 事業の概要 | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料（地域資料）を収集・保存するとともに、資料の利用促進を図る。紙媒体の収集に加え、郷土関係資料のデータベース化を推進し、後世に郷土資料を継承するための保存・活用を進める。 ・鳥取県出身の文学者及び鳥取県の自然や文化について興味、関心を喚起する資料展や講演会を開催する。県内の関係機関や市町村立図書館、学校図書館と連携し、広く県民へ情報を発信する。 | | | | | | | | |
| 2 事業内容 （単位：千円） | | | | | | | | |
| 区分 | 予算額 | 事業内容 | | | | | | |
| ふるさとの歴史再発見事業 | 2,624 | 鳥取県の図書館界の発展に多大な功績を残した遠藤董氏の業績を顕彰する資料展及び講演会を開催する。また、郷土文化の普及の一環として、鳥取県の昔話を聞く会を開催する。 | | | | | | |
| 郷土文学者情報発信事業 | 169 | 「遠藤董」「尾崎放哉」「尾崎翠」などの郷土出身者や地域資料を紹介する資料展を市町村立図書館等を連携し開催する。また、郷土文学について理解を深めることができる文学講座を開催する。 | | | | | | |
| 「文字・活字文化の日」記念事業 | 323 | 「文字・活字文化の日」を記念し、地方出版文化功労賞受賞者による講演会、鳥取県立図書館の30年のあゆみを紹介する資料展を開催する。 | | | | | | |
| 地域資料データベース等サービス事業 | 1,509 | 日本海新聞の記事検索サービス、マイクロフィルム化した新聞の閲覧サービスを提供する。 | | | | | | |
| 合計 | 4,625 | | | | | | | |
| 3 これまでの取組状況、改善点 | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・外部機関と連携し、「魅力発見！山陰海岸ジオパーク ー日本海の形成とめぐみー」、「とっとり県民の日記念企画「障がい福祉の父 糸賀一雄」」などの資料展や講演会を開催し、郷土情報の発信を行った。令和元年度は、交流25周年を記念して「お隣の国、韓国・江原道をもっと知ろう！」を開催した。 ・現在30テーマある調べ案内「郷土学習ガイド」は内容修正を行い、最新情報を加え公開した。学校や図書館ほか、小学生の夏休みの自由研究、当館主催の鳥取県ジュニア司書養成講座等で利用されている。 | | | | | | | | |

令和2年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費

6項 社会教育費

図書館（電話：0857-26-8155）

2目 図書館費

（単位：千円）

| 事業名 | 本年度 | 前年度 | 比較 | 財源内訳 | | | | 備考 |
|--------------|---|-------|---------|-------|----|-----|-------|----|
| | | | | 国庫支出金 | 起債 | その他 | 一般財源 | |
| 図書館国際交流事業 | 6,041 | 9,549 | △ 3,508 | | | | 6,041 | |
| トータルコスト | 17,913千円（前年度 15,899千円） [正職員：0.8人、会計年度任用職員：2人] | | | | | | | |
| 主な業務内容 | 韓国・中国・ロシアの図書館との交流（図書交換等）、国際交流ライブラリー講演会等開催、運営企画その他管理事務 | | | | | | | |
| 工程表の政策目標（指標） | 生涯学習の環境整備と活動支援 | | | | | | | |

事業内容の説明

1 事業の概要

鳥取県が進めている環日本海諸国との交流や、さらなるグローバル化に伴う幅広い国際交流や国際理解の促進を支援するために、環日本海交流室・国際交流ライブラリーの機能を生かし、広く海外情報を収集・提供することに努める。
また、英語教育や国際理解教育の推進等、世界で活躍する人材育成につながる情報収集・提供に努める。

2 事業内容

（単位：千円）

| 区分 | 予算額 | 事業内容 |
|--------------------|-------|---|
| 中国河北省図書館との交流 | 922 | 中国河北省図書館職員を招聘し、図書交換事業の内容見直し等の協議を進める。また、当館と河北省図書館双方が相互訪問し、それぞれ現地で図書館事情、電算化、産業資料等の調査研究を行い、両館の発展に寄与するとともに、相互理解と友好を深めていく。 |
| 図書交換事業 | 1,012 | 図書交換等に関する協定を結んでいる韓国・中国・ロシアの図書館と資料、情報の交換を行い、交流を深める（韓国・中国・ロシアへ各60冊送付）。また、新たにモンゴル中央県立図書館との交流も試行する。 |
| 海外に関する資料収集整備・提供の促進 | 3,351 | 特色ある資料収集等に努め、資料提供の向上、充実を図る。また、所蔵資料の目的別、言語別リスト化を進め、ホームページで公開していく。 |
| 海外に関する情報発信 | 682 | 県民に広く海外諸国に関する情報を発信・提供することにより、海外諸国に親しんでもらうとともに、資料の活用促進を図る。また、講演会を開催し、県民の国際交流の理解に寄与する。 |
| 語学・歴史・文化等学習支援事業 | 74 | 県民の海外諸国（地域）との交流や異文化理解を支援し、翻訳絵本、英語多読等、資料活用を推進する。また、大学図書館との連携し、留学生の利用促進を図る。 |
| 合計 | 6,041 | |

3 これまでの取組状況、改善点

- ・英語多読向け図書をホームページからも確認できるように、読みやすさのレベル別に色分けをした。
- ・国際交流ライブラリー講演会では、県中・西部の図書館と共催し、言語（英語、ロシア語、漢字）をテーマにした内容で行った。
- ・関係機関と連携し、国際交流関連のテーマで図書展示を行った。（県立博物館企画展「中河北省の伝統工芸」、ロシアウラジオストクとのバレエ交流公演）

令和2年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費

6項 社会教育費

図書館（電話：0857-26-8155）

2目 図書館費

（単位：千円）

| 事業名 | 本年度 | 前年度 | 比較 | 財源内訳 | | | | 備考 |
|--|---|--|------|-------|----|-----|------|----|
| | | | | 国庫支出金 | 起債 | その他 | 一般財源 | |
| 生きる力を育むとっとり学校図書館活用教育普及事業 | 897 | 990 | △ 93 | | | | 897 | |
| トータルコスト | 7,980千円（前年度 8,134千円） [正職員：0.9人] | | | | | | | |
| 主な業務内容 | 高校生の未来につながる読書推進、学校図書館活用教育普及講座、学校図書館職員研修、その他管理事務 | | | | | | | |
| 工程表の政策目標(指標) | 生涯学習の環境整備と活動支援 | | | | | | | |
| 事業内容の説明 | | | | | | | | |
| 1 事業の概要 | | | | | | | | |
| <p>学校図書館支援センターが設置5年目となり、就学前から高校まで一貫した学校図書館活用教育を目指す「とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン」（以下、ビジョン）の節目の年となる。新学習指導要領における学校図書館の役割を普及啓発するため、教科書が改訂となる小学校について、各学校や市町村教育委員会とも連携しながら、学校図書館を活用した授業の年間計画のモデルを作成し、県内への普及に努める。併せて、各学校図書館関係職員の能力向上に資する研修の実施と、学校全体で行う学校図書館活用教育の推進を行う。</p> | | | | | | | | |
| 2 事業内容 （単位：千円） | | | | | | | | |
| 区分 | 予算額 | 事業内容 | | | | | | |
| 学校図書館活用教育普及講座 | 458 | 市町村教育委員会と共に新しい教科書が採択される小学校について学校図書館を活用した授業の年間計画モデルを作成し、小、中、特別支援学校の学校図書館関係者、その他教職員を対象に、市町村教育委員会と連携し、作成した年間計画モデルをもとに学校図書館の計画的な授業活用を目指した研修会を東部中部西部3カ所で行う。 | | | | | | |
| 学校図書館司書研修会 | 0 | 昨今の教育的課題を踏まえた学校図書館の利活用と推進を目指し、県内学校図書館関係者だけでなく、広く教職員への参加を呼び掛ける研修会を年1回開催する。「鳥取県立図書館開館30周年記念シンポジウム」において開催する。 | | | | | | |
| 高校生の未来につながる読書推進 | 399 | 各学校図書館から推薦された小説以外の本のパンフレットを高校生に配布し、投票を募る。全国高等学校ビブリオバトル大会の県予選として、代表者1名を選考する大会を開催する。 | | | | | | |
| 新任学校司書研修会 | 7 | 新規で学校図書館に採用・異動した職員を対象に、学校図書館の運営や学校司書の年間業務について年間3回の研修会を実施する。 | | | | | | |
| 学校図書館支援員派遣事業 | 33 | 市町村立図書館、教育委員会、県立学校等の要望に応じて、県立図書館職員が各自治体や学校へ出向いて研修を実施する。 | | | | | | |
| 合計 | 897 | | | | | | | |
| 3 これまでの取組状況、改善点 | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館活用教育普及講座（東中西部3会場）を開催した。（令和元年度 総参加者129名） ・県立高等学校司書研修会を開催した。（令和元年度 参加者24名） ・学校図書館関係者だけでなく、広く教職員の参加を呼び掛ける。 | | | | | | | | |

令和2年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費

6項 社会教育費

図書館（電話：0857-26-8155）

2目 図書館費

（単位：千円）

| 事業名 | 本年度 | 前年度 | 比較 | 財源内訳 | | | | 備考 |
|---------------|---|-------|-------|-------|----|-----|-------|----|
| | | | | 国庫支出金 | 起債 | その他 | 一般財源 | |
| 市町村図書館等協力支援事業 | 8,883 | 9,391 | △ 508 | | | | 8,883 | |
| トータルコスト | 34,134千円（前年度 29,236千円） [正職員：2.5人、会計年度任用職員：2.0人] | | | | | | | |
| 主な業務内容 | ジュニア司書養成研修、協力図書館の貸出・配送、リクエスト図書館の配送、市町村・高等学校・特別支援学校図書館巡回相談、図書館職員研修、その他管理事務 | | | | | | | |
| 工程表の政策目標(指標) | 生涯学習の環境整備と活動支援 | | | | | | | |

事業内容の説明

1 事業の概要

県立図書館と市町村立図書館等を結ぶ物流・連携網を活用し、県立図書館の資料とサービスを全県民へ提供することにより、県内図書館ネットワークの要としての機能を果たす。
また、地域の課題やニーズに対応するために図書館職員の研修を実施し、全県の図書館サービス向上を図る。
さらに、図書館の機能を理解して活用してくれる子どもたちを育て、更なる利用促進につなげる。

2 事業内容

（単位：千円）

| 区分 | 予算額 | 事業内容 |
|------------------|-------|--|
| 鳥取県ジュニア司書養成事業 | 18 | 子どもたちに、体験を通して図書館の良さや機能を知り、情報活用能力を身に付けてもらう講座を県立図書館・市町村立図書館が協働で実施する。図書館を将来にわたって利用し、その有用性を広め応援してくれる存在を全県で育成することをねらいとする。 |
| 図書館業務専門講座 | 630 | 社会の急激な変化に対応して多様化・高度化している県民の図書館に対するニーズに応えていくため、市町村立図書館職員の資質向上を目的とした研修を年4回実施する。 |
| 県内図書館の課題解決に向けた支援 | 284 | 県立図書館職員が市町村立図書館を訪問し、受けた個別相談・要望等に対して意見・情報交換を行い、業務改善を図る。また、県立図書館職員が講師として市町村立図書館に出向き、希望するテーマに沿った研修を実施する。 |
| 県立図書館資料等の配送・回収事業 | 7,951 | 県内の図書館、病院図書室、試験研究機関等、資料を必要とする県民・機関へ迅速な配送を実施する。 |
| 合計 | 8,883 | |

3 これまでの取組状況、改善点

- ・ 図書館の良さや機能、活用方法を子どもたちに体験をもって学んでもらう鳥取県ジュニア司書養成講座を平成29年度から実施している。
- ・ 社会情勢の変化や県内図書館職員のニーズに応じて、図書館業務専門講座を年4回実施している。
- ・ 市町村立図書館、高等学校・特別支援学校図書館、大学図書館、県立病院図書室・試験研究機関・協力機関へ年間2回以上訪問することを目標に訪問相談を実施している。研修講師派遣事業についても、レファレンスや本の補修についての研修等、各図書館の要望に応じた形で実施している。
- ・ 県内各館からのリクエスト本を2日以内に届ける宅配システムと、隔週で巡回し、大量の資料や展示物の配送及び回収を行う搬送システムを運用している。

令和2年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費

6項 社会教育費

図書館（電話：0857-26-8155）

2目 図書館費

（単位：千円）

| 事業名 | 本年度 | 前年度 | 比較 | 財源内訳 | | | | 備考 |
|--|---|---|------------------|-------|----|--------------------------------|------------------|----|
| | | | | 国庫支出金 | 起債 | その他 | 一般財源 | |
| 図書館運営費 | 債務負担行為 19,717 | 債務負担行為 6,296 | 債務負担行為 13,421 | | | (基金繰入金 4,100 諸収入 437) | 債務負担行為 19,717 | |
| | 203,954 | 265,509 | △ 61,555 | | | 4,537 | 199,417 | |
| トータルコスト | 332,570千円（前年度 367,115千円） [正職員：12.8人、会計年度任用職員：10.0人] | | | | | | | |
| 主な業務内容 | 館内でのサービス提供 施設・設備維持管理 資料購入、整備 その他管理事務 | | | | | | | |
| 工程表の政策目標(指標) | 生涯学習の環境整備と活動支援 | | | | | | | |
| 事業内容の説明 | | | | | | | | |
| 1 事業の概要 | | | | | | | | |
| <p>県立図書館の管理運営、資料整備を行う。 また、外部委員から図書館運営について意見をもらう図書館協議会を開催する。</p> | | | | | | | | |
| 2 事業内容 （単位：千円） | | | | | | | | |
| 区分 | 予算額 | 事業内容 | | | | | | |
| 図書館管理運営費 | 104,356 | 図書館協議会の開催 図書館業務の管理運営等 図書館システムの管理運営等 施設設備の維持管理等 | | | | | | |
| 資料購入整理費 | 99,598 | 図書館資料整備 逐次刊行物資料整備 資料整理経費等 | | | | | | |
| 合計 | 203,954 | | | | | | | |
| 3 これまでの取組状況、改善点 | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 資料購入に関して、専門家からの意見を随時取り入れて専門書を購入したり関係雑誌の購入を増やしたりするとともに、引き続き資料購入費の効果的な執行に努め、資料整備を着実に進める。 | | | | | | | | |